『隣る人』映画上映会　開催

2016年年6月24日に本学図書館の会議室にて、第37回日本カトリック映画賞をはじめ数々の賞を受賞した話題のドキュメンタリー『隣る人』の上映会を行いました。
上映会は、男女共同参画推進室が企画し、カトリックセンター、学生センター、上智社会福祉専門学校の協力のもと実施しました。当日は、学生や教職員の他、学外からも参加されて、約100人が集まりました。また、このドキュメンタリー映画を企画された稲塚由美子さんにもお越しいただき、上映後に映画製作の背景等についてお話を伺い、参加者からの質問にも丁寧に答えていただきました。
この映画は、地方のある児童養護施設で生活する子どもたちとその子どもたちの親代わりとなって日々の生活に密接に関わる保育士達の姿を8年間に渡ってカメラに収めたドキュメンタリーです。「この映画にはナレーションもBGMもテロップもなく、又、起承転結もドラマもなく答えもありません。この映画を見た一人ひとりが感じたことを自分のものとして受け止めていただければ」と企画された稲塚さんは語ってくださいました。
85分の映像には600時間もの撮影を要したとのことです。淡々と日々の生活を記録する中で、愛情を惜しみなく与える保育士への子どもたちの強い思慕、親子の葛藤や愛情を求めて子供たちが競ったりけんかしたりする様子など、様々な場面に寄り添うような映像は、現代の私たちに親と子、人と人とのつながりについてあらためて考える機会を与えてくれたと思います。
「誰もひとりでは生きられない」と、みんなが映画を見終わって静かに感じた上映会となりました。

ヘルスケアセミナー実施報告

第1回ヘルスケアセミナー

日時：2016年3月4日（金）11：40～12：50

総合人間科学部看護学科助手会主催による第1回ヘルスケアセミナーが開催され、男女共同参画推進室も企画段階から協力し当日を迎えました。本セミナーは本学教職員を対象に企画され「仕事と子育てのバランスを大切にしよう！」というテーマで、助産学専攻の稲田千晴先生が子育て中の働く女性に向けて「仕事と育児のバランスとリラックス」について、次に精神保健学の面から原田尚子先生が「女性の役割とストレス」についてのお話をしてくださいました。それぞれの教員が専門分野から実情に即した興味深いレクチャーを行なったあと、各グループに分かれてグループ・ディスカッションを行いました。
ランチタイムをはさんでの開催にもかかわらず、幅広い年齢層の教職員が約30人集まりました。女性だけでなく男性教職員の参加もあり、多角的な立場で意見交換ができ、非常に有意義なひと時を共有することができました。今後も協力して企画していきたいと思いますので皆様もぜひご参加ください！

上智学院男女共同参画推進委員会委員長のご挨拶

3月から委員長を拝命いたしました。どうかよろしくお願いいたします。学外からも高く評価されている本学の男女共同参画推進活動のため、微力ながら努めさせていただきます。男女共同参画の実現は、女性の力をいかに活用して経済を発展させるかというような実利に偏重した動機では限界があると思います。
そもそも男女がそれぞれの人格を尊重し、異なる個性を持った同じ人間として連帯して個々人と社会のために働ける関係を築くことを目指すことが肝要でしょう。そのため少しでも貢献できればと願っております。

総務担当理事　佐久間　勤

編集・発行　学校法人 上智学院男女共同参画推進室
〒102-8554　東京都千代田区紀尾井町７－１　Email：wrsswg@sophia.ac.jp　URL：http://danjokyodo-sophia.jp

Office for the Promotion of Gender Equality, Sophia School Corporation

NEWSLETTER 上智学院 男女共同参画推進室

July 2016　No.8

教育サミット2016
「教育による女子・女性のエンパワーメント」を開催しました。

日時：2016年5月17日（火）　場所：2号館国際会議場

上智大学、国際協力機構（JICA）、グローバル・パートナーシップ（GPE）との共催で、G7伊勢志摩サミットに先立ち、教育シンポジウムを開催しました。在学生のほか、関係団体の実務者など131人が参加しました。
本シンポジウムは2部構成で行われ、第1部は小池百合子衆議院議員と、GPEのCEOであるアリス・オルブライト氏が基調講演を行いました。小池氏はシリア難民の問題をとり上げ、女子・女性の教育面の厳しい現状を報告し、人道支援における教育支援強化の必要性を訴えました。

オルブライト氏は、政府支援を通じ、教育改革に取り組むGPEの活動を紹介。途上国を中心に女性の教育機会やエンパワーメントが損なわれている状況を課題視し、「女子が教育の恩恵を得るために、我々は戦う必要がある」と参加者に呼びかけました。

第2部は国際基督教大学の西野幹子上級准教授をモデレーターに迎え、パネルディスカッションを行いました。パネリストはそれぞれの専門分野から発表を行い、その後、ディスカッションではどのように教育が女子・女性を生涯に渡ってエンパワーメントできるのか、などについて活発に議論がなされました。

◆馬野裕朗氏（国際NGOプラン・ジャパン）：
「パキスタン：女子コーラン学校への公教育の導入を通した女の子のエンパワーメントの取り組み」
◆金澤大介氏（GPE）：「教育による女子・女性のエンパワーメント－GPEの戦略」
◆小塚英治氏（JICA）：「女子教育支援におけるJICAの取り組み－住民参加型のアプローチをどう生かすか」
◆小松太郎氏（上智大学）：「なぜ学びたいか：東ティモール・セカンド・チャンス教育参加者の動機」

参加者の感想

- 女性教育だけでなく、男性社会の意識変革、フェミニズム的な考え方の発展、一人一人の意識改革の大切さを感じた。
- 日本がトルコにシリア難民のための学校をつくっていたことに驚きました。トルコと親交の深い日本だからこそできることで更に発展させてほしいです。

女性活躍推進法施行による行動計画

女性活躍推進法に係る上智学院一般事業主行動計画について

1 計画期間：2016年4月1日から2021年3月31日までの5年間
2 課題：専任職員に占める女性管理職比率を高める必要がある。
（2016年3月末時点：29.4%，10人/34人）
3 目標および取組内容：スーパーグローバル大学創成支援構想「1. 国際化関連(1)多様性③教職員に占める女性の比率」と連動し、女性専任職員の役職登用に係る目標および取組内容とする。

目標：専任職員の管理職(課長級以上)に占める女性割合を40%以上にする。

取組内容：
①女性職員に対し、現状に係るアンケート実施とニーズの把握
②若手女性職員を対象としたロールモデルの活用等による将来のキャリアイメージ形成を支援する教育訓練および業務を通した実践的な取組の検討
③女性労働者育成に係るマネジメント層を対象とした研修の実施
④教員と職員が協働して取り組む女性活躍推進プロジェクトによる施策の提言

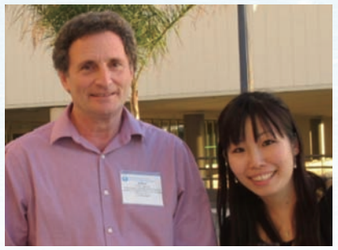
2016年度研究支援員利用状況

上智学院では、2012年度より本学研究者がワーク・ライフ・バランスを保ちながらキャリア形成を継続し、公正な競争に参加できるよう本制度を運用しています。
利用者の研究分野や所属する部局も多岐にわたっており、男性も女性同様にこの制度を活用されています。
本制度を利用する教員が研究支援員のロールモデルやメンターとしての役割も担っており、研究支援員の育成といった波及効果も出ています。

所属	2016年度		
	男性	女性	合計
総合人間科学部	1	2	3
法学部		1	1
経済学部		1	1
外国語学部		2	2
国際教養学部	2	2	4
理工学部	4	1	5
総合グローバル学部	1		1
地球環境学研究科		1	1
短期大学部		1	1
社会福祉専門学校	1	1	2
合計	9	12	21

事例報告：グローバル・メンター制度

理工学研究科博士後期課程3年 石田真子さん × ニューヨーク州立大学 Arthur Samuel教授



石田さんはグローバル･メンターのアドバイスを得ながら研究を進め、博士論文の執筆を続けております。

石田さんの専門分野および博士論文のテーマについて教えてください。

専門分野は、第二言語習得者の音声知覚です。特に音韻修復（物理的には存在しない音を脳が補って聞く）の現象に焦点を当てて研究をしています。例えば、日常会話で話される崩れた発音を人がどのように聞いているのか、雑音などで劣化した音声を人がどのように聞いているのか、などを研究しています。

どのような経緯でSamuel先生の指導を受けることになりましたか？

私は上智大学大学院の博士前期課程に在学していた頃、フルブライト奨学生としてコロンビア大学大学院の修士課程にも入学し、音韻修復の研究室を探していました。そして、ニューヨーク州立大学のSamuel先生の研究室を知り、先生に直接メールを送って、研究室に入れて頂きました。その後、上智大学とコロンビア大学の修士課程を修了し、本学の博士後期課程に進学しました。Samuel先生には上智大学のグローバル･メンターとして引き続きご指導を頂いています。

Samuel先生からどのような指導を受けましたか？

研究課題については、まずは論文をたくさん読むよう指導があり、先生と情報交換をしながら、研究計画についてじっくり話しました。倫理委員会への実験許可申請や、心理学の実験計画の立て方、刺激音の作成、分析･統計、学会発表、論文執筆まで、一つ一つのステップで、本当に丁寧にご指導下さり議論を重ねて研究を進めています。

将来グローバルメンター制度を利用しようと考えている後輩にひと言

興味のある研究室があったら、積極的に先生にコンタクトを取ってみることをおすすめします。国内外でネットワークを広げながら、研究を進める良いチャンスだと思います。

指導教員の荒井隆行先生からのコメント

石田さんは博士後期課程から私の研究室にきましたが、その前、言語学専攻の博士前期課程に在学中に始まったグローバル･メンターによる講演会･相談会に参加し、以来、この制度を積極的に活用しています。Samuel先生に出会ってからはグローバル･メンター制度の一環として指導を受け、その間、女性研究者グローバル育成奨励賞を受賞しアメリカでの研究支援も受けました。その成果がまもなく、学位論文としてまとめられようとしています。このようなケースを含め、グローバル･メンター制度を利用する人が今後増えることを願いつつ、また石田さんが1つのモデルケースになればと思っています。
なお、12月にSamuel先生の講演会を予定しております。専門の認知心理学はもとより、専門以外のお話も伺えると思いますので、ぜひご参加ください。詳細は後日お知らせいたします。

男性教員の育児参画

理工学部物質生命理工学科教授　久世 信彦

私は昨年7月終わりから2週間、理工学部における男性教員の育児参画に基づく出校免除により出産及び育児をサポートすることができました。私にとってこの2週間は大変ありがたく、出産が予定日より1日早まっても病院への付添いや出産後の各種段取りにスムーズに対応することができました。休暇中、私は部屋の模様替えのほか、料理を主に担当しており、今では食事の支度をするのが苦にならなくなりました。

総合グローバル学部総合グローバル学科教授　福武 慎太郎

長男と次男の誕生時、4ヶ月ずつ計8ヶ月の育児休業を取得しました。本学の男性教員としてはじめての取得であったと聞いています。学期途中からの休業と復職を避け、学期単位に合わせ取得しました。学部学科の先生方のご理解のおかげで気持ち良く育児に専念することができました。

2016 年度「女性研究者グローバル育成奨励賞」

本奨励賞は、2011年度に女性研究者支援モデル育成事業終了後に創設され、理工学研究科の女子学生を対象に国際的に活躍できる研究者の支援を目的としています。

受賞者6名

○高橋　咲　（生物科学領域　博士前期課程1年）
短期留学先 University of Dundee　イギリス･ダンディー

○伊澤　恵子　（生物科学領域　博士前期課程1年）
10th World Biomaterials Congress　カナダ･モントリオール

○岸　弓乃　（化学領域　博士前期課程1年）
The 8th Shanghai International Symposium on Analytical Chemistry 中国･上海

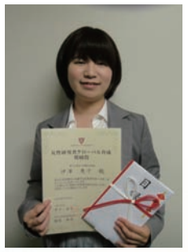
○納富　菜々　（化学領域　博士前期課程1年）
The 8th Shanghai International Symposium on Analytical Chemistry 中国･上海

○坂井　あづみ（物理学領域　博士前期課程1年）
The 26th International Conference on Ultrarelativistic Nucleus-Nucleus Collisions (Quark Matter 2017)
アメリカ･シカゴ

○網本　侑理　（情報学領域　博士前期課程2年）
5th Joint meeting of the Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan アメリカ･ホノルル

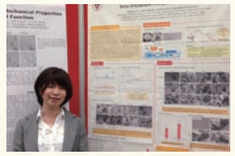
グローバル育成奨励賞受賞者報告

理工学研究科理工学専攻
生物科学領域
博士前期課程1年
伊澤恵子



賞状と目録を手にして

私は、神澤研究室で生体材料の研究を行っております。この度、カナダのモントリオールで行われた国際学会に参加致しました。初めての学会、それも国際学会ということでとても緊張しましたが、無事自分の研究成果を伝えることができました。また、世界各地の研究機関の発表を聞くことができ、特に自分と同世代の女性研究者との交流は今後の研究活動への大きな励みになりました。女性研究者の参加数は全体の40%と約半数を占め、みなさんのびのびと発表しており、その姿は私にとって今後の目標にもなりました。今回の学会参加は私にとって貴重な経験になり、今後、女性研究者の一人として胸を張って研究成果を発信していけるよう、日々精進してきたいと思いました。



学会発表ポスターの前で

Congress partyの風景-学会参加者とゲームをしたりして楽しみました。

学内でオムツ替えが出来る場所をご存じですか？

学内にはオムツ替えシートがある場所が3箇所あります。

- 10号館1階女子トイレ内
- 10号館地下1階多機能トイレ内
- 2号館学事センター右側入口付近障害者用トイレ内